

みどりの大地 青い地球をいつまでも

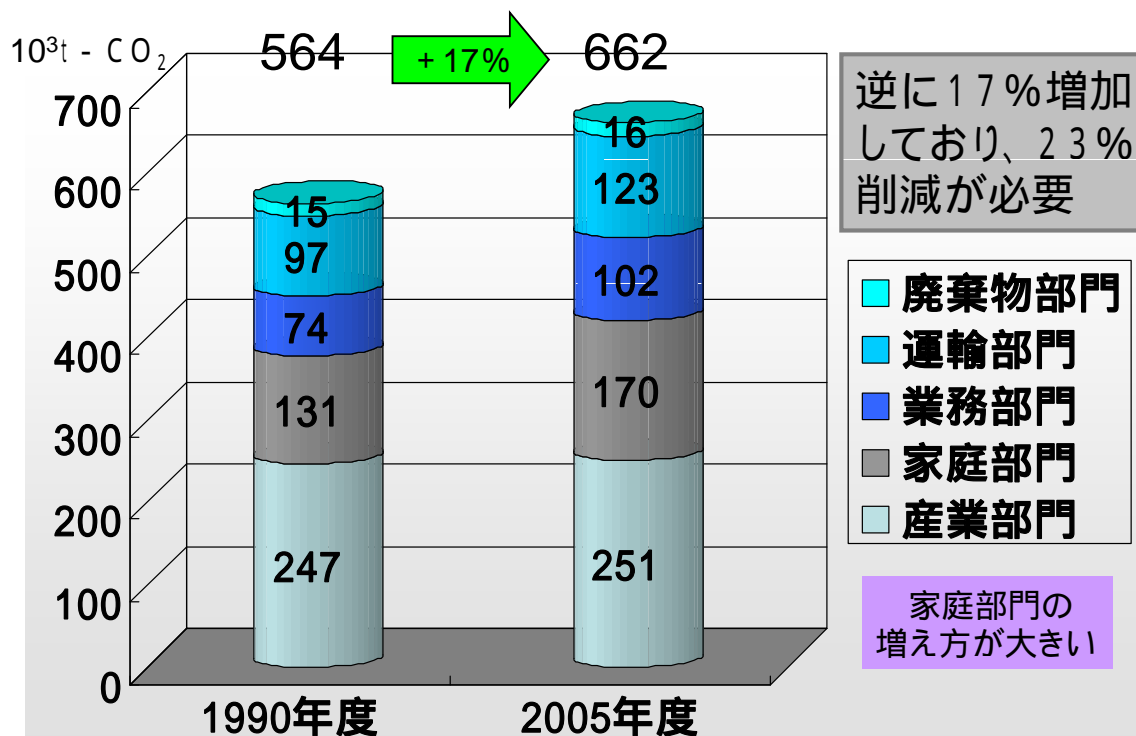
ふだん着でCO₂をへらそう

都市農業を守ろう

日野市長 馬場弘融

1. ふだん着でCO₂をへらそう

日野市のCO₂排出量の推移



ふだん着でCO₂をへらそう事業

平成20年より市民・関係団体の皆さんとともに「ふだん着でCO₂をへらそう」実行委員会を組織し、地球温暖化対策・CO₂削減に向けた取り組みを進めております

この「ふだん着」には

- ・肩肘をはることなく
- ・決して無理をせず
- ・一人ひとりが毎日のくらしの中で
- ・地道にコツコツと
- ・途絶えることなく継続していく

「普段」と「不断」の意味を込めました



ふだん着でCO₂をへらそう標語表彰式

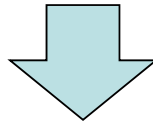
平成21年には、事業を広めるためのキャッチフレーズを子どもたちから募集し、2,241通の応募の中から標語が選ばれました



最優秀賞 みんなで地球を助けよう！

ふだん着でCO₂をへらそう宣言

ふだん着でCO₂をへらそう宣言とは？



地球温暖化対策の一環として、省エネルギーの取組みを市内の家庭・事業所において継続的に行っていただきます。

ふだん着でCO₂をへらすメニュー

「7つ」の主要な取組み → 取組番号をハガキに「〇」して、ポストに投かん！（切手不要です。）

他にも、様々な取組みがあります。

1	人のいない部屋などは、こまめに照明を消す。 CO ₂ 削減量の目安 25g削減（1日あたり） へらせる光熱費の目安 43円（1年あたり）	ア	白熱電球を電球型蛍光灯に替える。 CO ₂ 削減量の目安 95g削減（1日あたり） へらせる光熱費の目安 1,850円（1年あたり）
2	身近な緑（植物）を一つでも増やすなど、緑を親しむ。	イウエ	冷蔵庫にものを詰め込みすぎない。温かいものは、室温で冷ましてから入れる。 CO ₂ 削減量の目安 50g削減（1日あたり） へらせる光熱費の目安 96円（1年あたり）
3	キーワードは「一家団らん」。家族が一つの部屋で過ごすように心がける。 CO ₂ 削減量の目安 80g削減（1日あたり） へらせる光熱費の目安 16,500円（1年あたり）	オ	ペットボトルはなるべく購入しない。水筒などの活用を心がける。 CO ₂ 削減量の目安 5g削減（1日あたり）
4	車を発進させるとき、「ゆったり」した発進を心がける。 CO ₂ 削減量の目安 30g削減（1日あたり） へらせる光熱費の目安 11,350円（1年あたり）	カ	テレビを見ていないときは電源を消す。 CO ₂ 削減量の目安 40g削減（1日あたり） へらせる光熱費の目安 800円（1年あたり）
5	洗面や歯磨きをすときは、こまめに水をためる。 CO ₂ 削減量の目安 5g削減（1日あたり） へらせる光熱費の目安 900円（1年あたり）	キ	地区別回を長く狭いときは主要道路をオフにするが、コンセントからプラグを抜く。 CO ₂ 削減量の目安 165g削減（1日あたり） へらせる光熱費の目安 3,400円（1年あたり）
6	マイバッグを利用して、レジ袋を受け取らない。 CO ₂ 削減量の目安 5g削減（1日あたり）	ク	車の急加速・急ブレーキをやめる。 CO ₂ 削減量の目安 185g削減（1日あたり） へらせる光熱費の目安 4,000円（1年あたり）
7	食材などは近くで採れたものを使うよう心がける。	ケ	エアコンなどを使う時間を1時間へらす。就寝前など、早めに止めてみましょう。 CO ₂ 削減量の目安 20g削減（1日あたり） へらせる光熱費の目安 400円（1年あたり）
		ケコ	エアコンなどの設定温度を、冷房は1℃上げて、暖房は1℃下げる。 CO ₂ 削減量の目安 90g削減（1日あたり） へらせる光熱費の目安 1,850円（1年あたり）
		ク	シャワーの使用時間を1日1分短くする。 CO ₂ 削減量の目安 80g削減（1日あたり） へらせる光熱費の目安 2,900円（1年あたり）
		コ	入浴は時間を空けずに、湯い抜きを減らすことができます。 CO ₂ 削減量の目安 240g削減（1日あたり） へらせる光熱費の目安 5,750円（1年あたり）

市内外の皆様から多くの参加をいただいております



イベントでの募集



事業所への訪問

取組の成果

一般世帯 **15,626世帯** から宣言

宣言いただいた取組を集計すると

約 **7,461 トン-CO₂**の削減



樹齢80年の木(針葉樹)1本が1年間で約14kgの
CO₂を吸収すると仮定すると

世帯平均 約 **34本** が吸収するCO₂量

光熱水費で見ると

世帯平均 年間約 **25,785円** の節約

(平成22年1月15日現在)

現代文明への反省

- 便利さ・豊かさを求めすぎた
- 石油を燃やしすぎた
- 自然を壊しすぎた
- 現代文明のメタボリックシンドロームを解消しよう

2. 都市農業を守ろう

日野市の農業の現状

総農家数		
順位	市町村名	(戸)
1	八王子市	1,435
2	町田市	1,070
3	青梅市	879
5	練馬区	572
7	世田谷区	443
12	日野市	371

農家人口(総農家)		
順位	市町村名	(人)
1	八王子市	5,096
2	町田市	4,077
3	あきる野市	3,276
5	練馬区	2,535
6	世田谷区	1,800
13	日野市	1,425

耕地面積		
順位	市町村名	(ha)
1	八王子市	941
2	町田市	596
3	青梅市	533
7	練馬区	306
14	日野市	214

毎年、生産緑地の追加指定を積極的に行っているものの、耕地面積は年々減少しています。

農業基本条例制定(平成10年7月施行)

条例制定の背景

- ①農地の多面的機能(環境・防災・教育など)
- ②農地の減少や農業従事者の高齢化
- ③農政の大きな転換(地球にやさしい農業)
- ④日野市の農業をしっかりと「産業」として位置づけ、「市民と自然が共生する農あるまちづくり」を展開

条例のポイント

- ①「農業」を市の基幹産業と位置づけた。
- ②農業振興計画で基本施策を位置づけ、計画の担保性を図った。
- ③市、農業者、市民にそれぞれ責務を課した。
- ④市長の付属機関として「農業懇談会」を設置、市民や農業者の意見が反映される道を開いた。

第2次日野市農業振興計画・アクションプラン

平成16年10月策定【計画期間:平成16年度~25年度】

●前期アクションプラン【実施期間:平成16年度~20年度】

●後期アクションプランを平成21年度策定

⇒安心して農業を続けることができる環境づくりや農地保全に関する施策を展開

振興計画の6本の柱

- (1) 安心して農業のできる環境づくり
- (2) 農業の担い手と仲間づくり
- (3) 市民と農家との交流・体験づくり
- (4) 安全安心な農産物づくり
- (5) ひの農業ブランドづくり
- (6) 日野市食育推進計画に基づく「農業振興施策」(後期アクションプラン策定時に追加)



援農市民養成講座「農の学校」 「日野人・援農の会」

農業を体験(支援)したい市民と農業者の高齢化と後継者不足を市民・農業者との協働により、日野の農地を守るための「援農ボランティアの養成」を推進する。1年間の実技講習・座学を受け、修了すると「日野人・援農の会」のメンバーとなり、農家への派遣されます。

「農の学校」事業

= 平成16年度事業スタート(平成17年1月)

期 間 1月(入学) ~ 12月(卒業)

【月2回の実技講習 & 月1回の座学】

平成17年卒業	22名
平成18年卒業	15名
平成19年卒業	20名
平成20年卒業	14名
平成21年卒業	19名
平成20年卒業	14名
平成22年入学	21名



学校給食契約栽培支援事業

学校給食への日野産野菜等の供給が始まったきっかけ

- 1 生徒が地元の畑を荒らす
- 2 給食の食べ残しが急増



農業者、学校関係者の悩み

生産者の顔が見える地元野菜等供給が有効

- 1 昭和58年、小・中学校4校で開始、26年を経過
- 2 平成12年から全校で開始(現在25校)
- 3 平成20年度利用率(購入価格ベース)は、18.8%
- 4 3地区(36農家)が学校へ供給
- 5 平成20年度から 学校と農業者の間に入り調整する「コーディネーター制度」を導入



都市農地・農業を守ること

都市農地の保全是単なる農業振興だけでなく、里山や雑木林、用水等の保全とともに、その多面的な機能を発揮させることにより、市民生活に潤いをもたらし、良好な住環境を維持する上でも非常に重要となっている。

日野市では市民への都市農業の理解促進をさらに図りながら、農業・農地を活かした住みよいまちづくりを推進しています。



みどりの大地 青い地球をいつまでも

ご静聴ありがとうございました